

## 入選

### ありがとうは魔法の言葉

福岡県 育徳館中学校

二年 礎 玲奈

「ありがとうは魔法の言葉」。

これから先の私の人生に、大きく影響していくであろうその言葉は、一人の消防隊員さんのなにげないひとことだった。

私の通っていた小学校では、代々第 6 学年に進級すると、職業体験というものがある。将来のための職業体験学習で、当時の私たちにとっては、とても待ち遠しい行事の一つであった。待ち遠しいゆえに、いくつかの職業先の候補の中で迷っていた。

どうせなら希望者が少なく、なおかつ私の憧れである消防署を希望した。私にとっての消防隊員の人たちの像は、いつもキラキラと輝いており、立派だったのだ。だからだろう。希望者の数が少ないのが、不思議でならなかった。

時は過ぎ、職業体験学習当日になった。その頃の私は、心の底からワクワクしていた。なぜなら、憧れである消防隊員さんたちに会えるから。このときの心情は、言葉だけでは言い表せないほど、貴重なものだったということは、今でも身にしみて感じている。

それから、実際に消防隊員さんたちの訓練の様子を目に焼きつけるように見学した。すると、どうだろうか。助けを求めている人々を助けようとする姿勢。絶対にあきらめるものか、という強い意志。幼いながらも、消防隊員の人たちのすべてに感動してしまった。

そして、見学したあとの一人の消防隊員のお話で、私の心は大きく揺らがされることになる。

「僕たち消防隊員は、人を助けるという使命を持っている。それは個性でもあり、長所でもある。よって、僕たち消防隊員は、人を助けることが生きがいみたいなものなんだ。誰かを助けても、自分は得をするわけでもないと思うかもしれない。

それでも、僕たちは誰かを助けることにより、笑顔と『ありがとう』という言葉をもらうことができるんだ。それだけでもう、満足してしまっているんだ。助けてよかったと思えるんだ。『ありがとう』というたったひとことに、僕たちは救われているんだ。ありがとうは魔法の言葉なんだよ。」

その言葉で、私の中にあったよくわからない価値観のようなものが、消えた気がした。「ありがとう」は、義務だと思っていた。助けられたら、必ず述べなければいけない感謝であり、礼儀でもある。そんな堅い価値観が消え、「ありがとう」がもっと好きになった。

今度は私たちが、「ありがとう」を伝える番だ。誰かを救う人にとっての生きがいとなるのだ。

なぜなら、「ありがとうは魔法の言葉」なのだから。